

2025/2月

TSUDOI

【増刊】GOOD銘柄 継続分析レポート(2月)

TSUDOIはブロックチェーンと仮想通貨に特化した情報配信サービスです。

本レポートコンテンツ

◆『狙い目：中堅銘柄』 継続分析ガイド

過去Goodマークを付与した中堅銘柄の継続分析

◆『大穴：新規銘柄』 継続分析ガイド

過去Goodマークを付与した中堅銘柄の継続分析

このレポートはTSUDOIの有料サービス、スタンダードプランの加入者専用の情報です。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。

レポートの読み方については、一覧に含まれる [「必見！成功へ導く3つの仮想通貨投資術」](#)をご覧ください。

継続分析レポートで中堅・大穴銘柄を調査する理由

中堅・大穴銘柄は、成長のポテンシャルが大きい一方でリスクも高いため、注意深い分析と継続的なモニタリングが重要です。これらの銘柄に特に注目し、直近の潜在的な成長機会を探るとともにリスクを管理する分析を行っています。TOP銘柄とは異なる視点から、潜在的な大きなリターンを狙うための情報を提供しています。

**とは**

TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

有料
レポート

過去週次レポート掲載 中堅銘柄 継続分析ガイド

『狙い目：中堅銘柄』 継続分析ガイド

調査・分析方法について

過去週次分析レポートにて高評価（Good）を付与した銘柄に関する継続調査。

この調査では、以下の点に着目して分析を行います。

- 直近の注目ニュースの有無：過去高評価を得た銘柄が、その後も新たな注目を集めるニュースが発生しているかどうかを調査します。
- 直近の重要指標推移：銘柄の市場でのパフォーマンスや他の重要な指標がどのように推移しているかを調査します。

これらの要素を総合的に評価し、投資家にとって有益な情報を提供することを目指しています。

過去にGoodマークを付与した銘柄一覧

銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日
ORDI	2023年 11/10	Starknet	2024年 3/8	Ondo	2024年 6/7, 7/26, 8/9, 9/26, 11/1, 11/22, 12/6
Celestia	2023年 11/17	Manta Network	2024年 3/8, 7/5	MANTRA	2024年 7/19
Blur	2023年 11/24	Axelar	2024年 3/14	Jupiter	2024年 8/2
Terra Classic	2023年 12/1	Biconomy	2024年 4/5	Aerodrome Finance	2024年 9/20
Ethereum Name Service	2024年 1/12, 7/26	Metis	2024年 4/26, 5/10	Worldcoin	2024年 11/1
Raydium	2024年 11/22, 2025年 1/24	Taiko	2024年 6/7, 11/13	ai16z	2025年 1/17
Virtuals Protocol	2024年 12/13	Hyperliquid	2024年 12/20	Ethena	2025年 2/7

Raydium : RAY **直近の注目ポイント：Uniswap超えの取引量で高まる注目度**

Raydiumでは、直近手数料の一部を活用した積極的なRAYトークン買い戻し（規模は約5,500万ドル）が価格を下支えています。ここ最近のSolanaベースのミームコイン市場の盛り上がりに伴い、Raydiumの取引量も増加し、流動性の向上につながっています。さらに先物プラットフォームのベータ版開始や、Uniswapを上回る月間DEX取引量の獲得が投資家の注目を集め、Solana上のDEXの代表格として存在感を示しています。

※直近1カ月でXフォロワーが3%弱増加しており注目度が増しております。

Hyperliquid : HYPE (Good継続中)

Hyperliquidは2025年初頭、独自ブロックチェーン『HyperEVM』のテストネット稼働を開始し、EVMメインネット公開へ向けた開発が着実に進展中です。これに伴い、エコシステム内で新たなDAppsのローンチが期待され、HYPEトークンの実需拡大や流動性向上が見込まれます。なお、段階的進捗や市場変動により短期的な価値変動も生じるため、投資家は慎重な評価が求められる状況です。

Ondo : ONDO **直近の注目ポイント：WLF1との提携と新プラットフォーム発表により期待高まる**

Trumpファミリー傘下のWLF1がOndo Financeとの戦略的提携を開始したことで、特に、トランプ政権の恩恵を受けやすいRWA市場において、ONDOが領域を牽引する期待感が高まっています。一方、2/7のOndoサミットで発表された「Ondo Global Markets」は、株式、債券、ETFなど伝統資産をブロックチェーン上でトークン化し、安定通貨並の流動性と低コスト取引を実現するプラットフォームです。またこれを支える「OndoChain」の発表も行われており、金融機関向けのセキュリティやコンプライアンス機能を確保しながら、パブリックチェーンのオープン性・アクセス性も兼ね備えており、機関投資家からの信頼獲得に寄与する基盤として高く評価されています。提携やプラットフォーム開発による事業進捗が直近立て続いており、さらなる注目を集めています。

Ethena : ENA (Good継続中)

先週の週次レポートでも触れた米上院提案の『GENIUS Act』は、ステーブルコイン発行者にライセンスと準備金要件を課す明確な規制枠組みを整備し、特に中小企業の規制負担を軽減するものです。これによりEthenaは市場参入や事業拡大が容易となり、利用者や金融機関の信頼を獲得。今週も同銘柄への需要拡大と長期成長が期待されます。市場環境は安定、規制明確化により促進が進むと見通しです。

継続分析による調査結果(継続分析で特筆すべき注目要因がなかった銘柄)**Celestia : TIA**

2025年2月現在、Celestiaの注目要因は見当たりませんでしたが、依然として同領域であるデータ可用性はブロックチェーンのスケーラビリティを支える重要要素として話題が続いています。今後のデータ可用性の進展に関して議論が進んでいくことで、同領域で有名な本銘柄への注目も期待ができる状態となります。

Virtuals Protocol : VIRTUAL

「Virtuals Protocol」はソラナへの拡大を進め、戦略的SOLリザーブによりコミュニティ支援を強化しています。ベンチャーパートナー制度で4万2千VIRTUALを新規プロジェクトに分配し、今月のAIハッカソンではソラナ財団の後押しを受けて技術革新を推進中です。複数チェーンを横断する構想が前進し、コミュニティや開発者への恩恵が増すと期待されています。現状は、このような施策にてキラーコンテンツの登場が期待されています。※直近1カ月でXフォロワーが10%弱増加しており注目度が増しております。

Axelar : AXL

1/22にFlowとの提携を発表し、Axelarのマルチチェーン相互運用性強化が進展。MDSを通じたクロスチェーン接続により、Flow上のアプリは70以上のブロックチェーンと統合可能に。しかし、市場の反応は限定的で、AXLトークン価格や取引量への大きな影響は見られず。現時点では実需拡大に時間を要する可能性が高く感じられ、今後のエコシステム成長と市場動向に注目していくと良いでしょう。

Metis : METIS

1/25 Metisは、[Layer2技術を基盤にAI特有の高速処理やデータ整合性、大規模計算に対応するReGenesisを発表](#)し、LazAIを通じた検証可能なAI資産プラットフォームを構築中です。中央集権的「God-Model」を脱却し、多様なAIモデルが共存するエコシステムを目指し、技術的ロードマップも一部非公開とする斬新な戦略が注目を集めています。ただし、[オンチェーンデータ上の指標の1つであるTVLは、市場環境に対して特に弱い動きを示しています。](#)

Taiko : TAIKO

Taikoは、世界最大規模のハッカーコミュニティであるDoraHacksと協業し、[Vitalik Buterinが提案したプライバシー保護と談合防止機能を備える投票仕組み「MACI」を採用](#)し、約92万人が参加予定しているとのこと(2/7から開始)。投票は完全にオンチェーンで行われ、利用者はスマートコントラクト経由で暗号化された票を投じます。参加者にはTrailblazerポイント5万が配布され、後にエアドロップへと転換予定です。Taikoは今後も技術面での事業展開に期待が集まる一方で、[オンチェーンデータ上の指標の1つであるTVLは、市場環境に対して特に弱い動きを示しています。](#)

MANTRA : OM

今週もMANTRAは先週に引き続き注目を集め、先週の週次レポートでも記載いたしました[Republic CryptoのMantra Chain参入でネットワークの信頼性が再評価](#)されています。今週もRWA市場成長への期待が高まる中、同領域で活発なONDOの動向も加わり、業界全体の関心が一層高まっています。

Jupiter : JUP

2/1 [Jupiter Mobileは新機能「Magic Scan」を実装。画像やテキストからトークン情報を瞬時に抽出し、主要DeFi連携とdApp接続を強化する仕組み](#)です。同社はJupnetや分散型ID（ADI）システムにより複数ブロックチェーン上の資産統合を推進。1/29 JUPトークンは3億トークンのバーンと買戻し計画を受け、Solanaエコシステムの成長と相まって注目度が増しております。ただし、ここ2週間は特に目立った話題ありませんでした。

ai16z : AI16Z

2/11配信されたニュースによると、機関投資家や大口投資家が、AIエージェントトークンへの買い戻しに動いていると報じられています。具体的には、あるクジラが資金を再配置し、AI16ZなどのAIAgentにおける主要なトークンに対して大規模な買いを実施しました。この動きにより、セクター全体が回復基調に入り、過去30日間で大幅に下落していた状況から、急速な反発が見られています。

オンチェーンデータ分析

- ・ Starknet：同銘柄のTVLは、過去1カ月でEthereum、Base、Arbitrumと比較して倍以上の下落率を記録しており、市場環境に対して特に弱い動きを示しています。
- ・ Manta Network：同銘柄のTVLは、過去1カ月でEthereum、Base、Arbitrumと比較して高い下落率を記録しており、市場環境に対して特に弱い動きを示しています。

直近1カ月のGoodマークの継続調査にて、新しい注目要因が見当たらなかった銘柄となります。

進捗なし：ORDI、Celestia、Ethereum Name Service、Starknet、Manta Network、Aerodrome Finance、Worldcoin

徐々にフォロワー減少中：Blur、Terra Classic、Biconomy

過去週次レポート掲載 大穴銘柄 継続分析ガイド

Goodマーク大穴・新規銘柄の継続調査

調査・分析方法について

過去週次分析レポートにて高評価（Good）を付与した銘柄に関する継続調査。

この調査では、以下の点に着目して分析を行います。

- 直近の注目ニュースの有無：過去高評価を得た銘柄が、その後も新たな注目を集めるニュースが発生しているかどうかを調査します。
- 直近の重要指標推移：銘柄の市場でのパフォーマンスや他の重要な指標がどのように推移しているかを調査します。

これらの要素を総合的に評価し、投資家にとって有益な情報を提供することを目指しています。

過去にGoodマークを付与した銘柄一覧

銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日
Arkham	2023年 11/30	ether.fi	2024年 3/22	Taiko	2024年 6/7
Xai	2024年 1/19	Ethena	2024年 4/5	io.net	2024年 6/14
Manta Network	2024年 1/19	Wormhole	2024年 4/5	Artificial Superintelligence Alliance	2024年 7/5
Ondo	2024年 1/26	Saga	2024年 4/12	LayerZero	2024年 7/5
Metis	2024年 1/26	Omni Network	2024年 4/19	SaucerSwap	2024年 11/22
Dymension	2024年 2/9	Merlin Chain	2024年 4/26	Morpho	2024年 12/6
Aevo	2024年 3/14	BounceBit	2024年 5/17	NAVI Protocol	2024年 12/13
Origin Protocol	2024年 12/6	Orca	2024年 12/13	DeepBook Protocol	2025年 1/10
Velodrome Finance	2024年 12/20	Pangolin	2024年 12/20	Arcana Network	2025年 1/17

※今回の継続調査にて新規Goodマーク付与する銘柄はありませんでした。
 ※Manta Network、Metis、Taiko、Ondoは、中堅銘柄として注目要因を考察しております
 ので、新規銘柄のトピックでは割愛致します。

継続分析による調査結果(継続分析で特筆すべき注目要因がなかった銘柄)

BounceBit : BB

2/7 BounceBitは2025年のロードマップを公式ブログにて発表しました。内容としては、機関投資家向け「BounceBit Prime」の導入を皮切りに、BTC建てや米ドル建ての実質利回り商品の展開、現実資産信用市場や決済・清算機関の整備など新機能を各四半期に順次導入し、アジア最大級の上場ビットコイン保有企業であるBoyya Interactive International Ltd(昨年末本銘柄は出資を受けています)を始めとした東洋の豊富な流動性とウォール街の大手金融機関やRWA発行者といった西洋の資本市場を融合することで伝統金融と分散型金融の橋渡しを強化し、国内外の戦略的パートナーシップを拡大しながら安定した収益と持続可能な成長を実現するグローバル金融エコシステムの構築を目指すを発表しました。

io.net : IO

2/5 DePINという分散型物理インフラの概念自体が注目を集める中、io.netは地理的に分散したGPUリソースを束ねる技術が強みにAI/ML向けの高性能インフラを提供しています。Nillionとの提携により、暗号化されたデータやモデルを安全に処理できる“プライバシー保護型AI”を実現し、金融や医療など規制の厳しい業界でも大規模AI導入が容易に。さらにスケーラブルなGPUリソース活用が期待され、データセキュリティと効率的な分散計算を両立可能にします。こうした事業進捗により、io.netはDePIN分野を牽引するプロジェクトの一つとして注目度を高めています。ただし、現時点では価格や露出頻度が低いため、実際の導入事例が増えることで本質的な需要や価値が明確になり、市場での評価がさらに高まると期待されます。

Wormhole : W

Wormholeは、1/28 Securitizeとの統合により、BlackRock、Hamilton Lane、KKRなどと連携し、10億ドル超のファンドLPトークンのクロスチェーン移動を実現しています。複数のブロックチェーン間で資産の移動を容易にし、流動性と柔軟性を大幅に向上させることで、機関投資家向けにインスティテュショナルグレードの相互運用性を提供しています。ただし、ここ2週間は特に目立った話題ありませんでした。

LayerZero : ZRO

2/11 LayerZeroは、自社の先進的な相互運用技術を活用し、TONのオープンネットワークとの連携を推進。これにより、TON経済圏は、USDTへ接続することが可能になり、イーサリアム、トロン、ソラナなど100以上のチェーン間で資産移動が可能となりました。このようなユースケースの増加により、LayerZeroの技術利用が広がり、ネットワーク内での取引手数料、ガバナンス、ステーキングなど、トークンの利用用途が増加します。

SaucerSwap : SAUCE

先月末のアップデート報告によると、トークン情報の自動更新やアイコン最新化、システム監視、データ処理最適化、取引画面改善などの取り組みを進め、利用者が常に正確な情報を得られ安心して取引できる環境を構築しました。これにより、ユーザー体験が向上し、取引のスムーズさが需要拡大へと繋がると期待されています。この改善により、初心者から上級者まで利用しやすい環境が実現し、今後も取引数の増加と取引高の上昇が期待されます。

Morpho : MORPHO

1/15 MorphoはCoinbaseと提携し、ビットコインを担保にしたUSDCローンサービスを展開しています。利用者は保有のビットコインを売却することなく、担保が自動的にcbBTCに変換された状態で、最短1分で最大10万ドル相当のUSDCを借りることが可能です。ただし、ここ2週間は特に目立った話題ありませんでした。

直近1カ月のGoodマークの継続調査にて、新しい注目要因が見当たらなかった銘柄となります。

進捗なし：Arkham、Xai、Aevo、Origin Protocol、Artificial Superintelligence Alliance、Velodrome Finance、ether.fi、Saga、Omni Network、Merlin Chain、Orca、Pangolin、DeepBook Protocol

徐々にフォロワー減少中：Dymension、NAVI Protocol、Arcana Network

引用元：

本レポートにおけるデータおよび分析は、以下の情報源を基にしています。

- CoinMarketCap : <https://coinmarketcap.com/>
- CoinCarp : <https://www.coincarp.com/>
- Messari : <https://messari.io/>
- TokenInsight : <https://tokeninsight.com/>

注意事項

本レポートは、投資助言を提供するものではありません。提供される情報は、一般的な解説に限定されており、個別の投資判断に直接適用するものではありません。投資に関する最終決定とその結果について、当方は一切の責任を負いません。

レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。商業利用に関するお問い合わせは下記よりご連絡ください。

発行元：TSUDOI

メールアドレス：info@sigmainc.co.jp

ウェブサイト： <https://tsudoi-platform.co.jp/>